

果樹病害虫発生状況（4月中旬）

1 リンゴうどんこ病

花そう葉での発生は、平年同様に確認されませんでした。

2 モモせん孔細菌病

- (1) 春型枝病斑の発生ほ場割合は、平年より高く、発病枝率が高いほ場も見られました（図1）。
- (2) 春型枝病斑は見つけしだい、せん除して適切に処分しましょう（注意報第1号参照）。

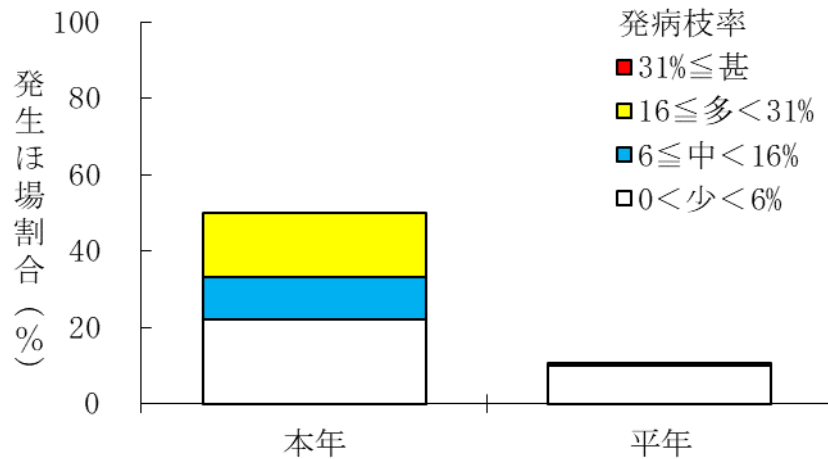


図1 せん孔細菌病（春型枝病斑）の発生状況

3 ナシ黒星病

- (1) 越冬量調査において、鱗片における越冬病斑の発生ほ場割合は中通りで平年よりやや高く、浜通りで平年並でした（図2）。
- (2) 花(果)そう基部に黒星病が発病している場合は、花芽に鱗片が脱落せず付着しているので、見つけしだい、丁寧に除去し、適切に処分しましょう。開花前後が重要な防除時期であるため、散布間隔があかないように注意しましょう。

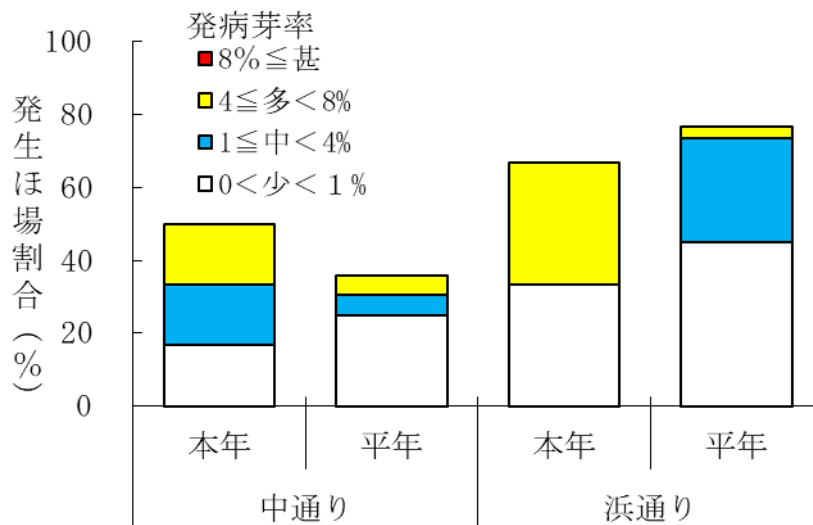


図2 黒星病（鱗片病斑）の発生状況（令和2年2月）

4 ハダニ類（ナシ）

- (1) 越冬量調査において、越冬卵が確認されたほ場の割合は中通りで平年並、浜通りで平年よりやや高い状況でした（図3）。
- (2) 越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

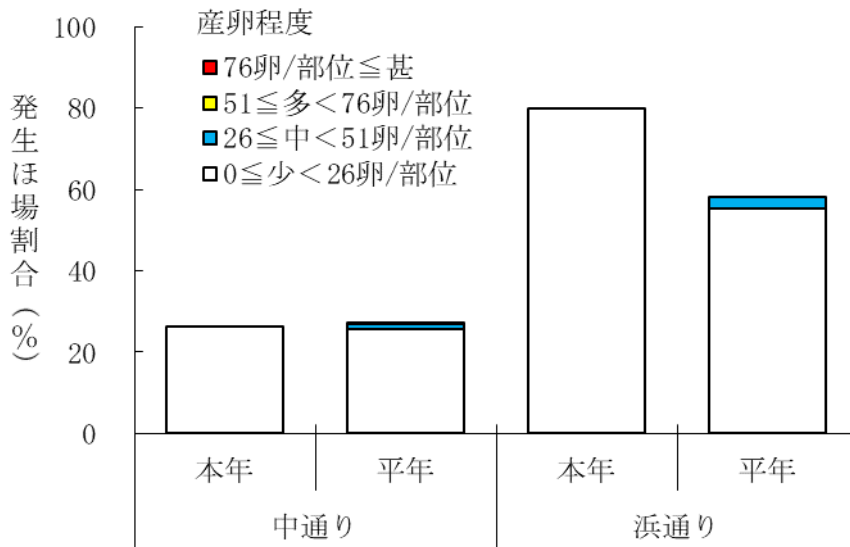


図3 ハダニ類（越冬卵）の発生状況（令和元年12月）

5 ハマキムシ類（果樹共通）

越冬世代幼虫の発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。

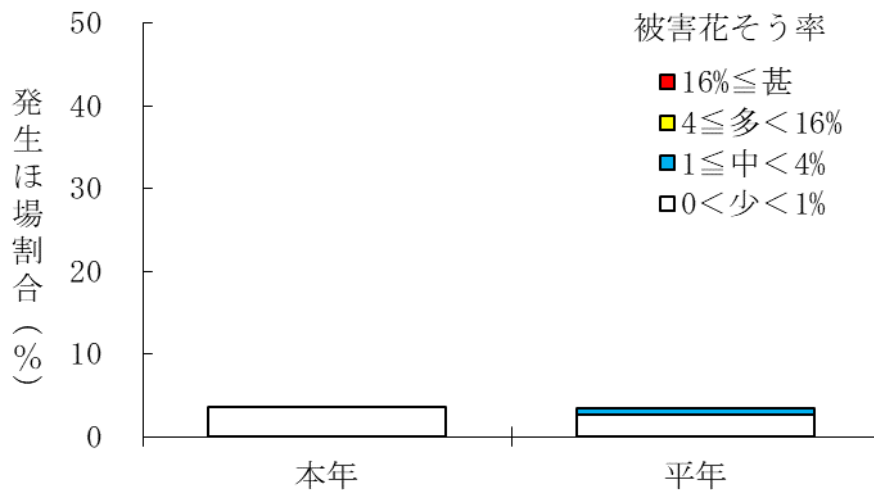


図4 ハマキムシ類（越冬世代幼虫）の発生状況